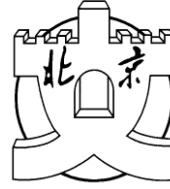


かささぎ



北京日本人学校
学校通信 8号
平成28年12月23日
校長 奥田 修也

冬休みを前にして ～遊ぶということ～

北京日本人学校校長 奥田修也

昔、2年間幼稚園の園長をしたことがあります。そのとき初めて感じたことは……幼稚園は何をするところかという「本気で遊ぶところ」でした。本気で遊ぶから友達ともぶつかります。もっと楽しくするために、と真剣に考えます。自分の身の回りのものを使って、遊ぶものを作り出します。その時に必要な技能も身に付けます。楽しい、という思いと同時に、悔しい、悲しいという思い通りにならない経験もします。また、それを乗り越えた時のワンランク上の喜びも味わいます。これはすべて本気で遊ぶからです。幼児は遊ぶことそのものが目的です。だからこそ本気になれるし、そこから学ぶこともたくさんあります。……

このことは小中学校でも同じだと思います。勉強は大事です、受験もあります。でも、勉強の日々の中にも遊びの時間は必要です。私は自宅付近で日本人学校の子どもたちが集団で体を動かして遊んでいるのを良く目にしますが、とても楽しそうですね。一人一人の持っている良いものが、その遊ぶ姿に醸し出されているように見えます。

何事にも「遊び」の部分が必要ということによく言われることですが、勉強時間に集中するためにも中学生を含めて遊びの時間を大切に考えてほしいのです。お家の方も本気で遊ぶ子どもたちを応援してください。特に体を動かして遊ぶことにより健康増進・体力増強を実現することは、今後のためにも重要です。冬休みも、大気の状態は良くなくても縄跳びなど汗をかくまでできる運動環境も努力すれば準備できると思いますので、ぜひ、休日など、ご家庭の皆さんもお子さんにつきあってあげてください。

ところで、室内での遊びについてですが、ゲーム機などでの遊びも時には必要でしょうが、お子さんの「みんなやってるよ」に振り回されないで、しっかりと時間管理される（させる）のがよいと思います。ちなみに、ずいぶん昔のことになりますが、我が家では、ゲーム機（そのころファミコン人気の絶頂期でした）は、考えた末、買いませんでした。そのころでも子どもながらに話の輪に入りきれないことや友だちの家でさせてもらうなど、寂しい思いもあったようですが、それはそれとして、寒さなどものともせず、サッカーやサッカー遊びに没頭していました。

大人になった今、「そのことはどうだった？」と聞きますと、「その当時はいろいろあったけど、今は、ゲーム機がうちになくてよかったと思ってるよ。」と二人とも答えます。別にゲームやゲーム機が悪いなんて全然思わないのですが、わが子の教育に対する家庭の方針をきちんと持って、子育てにがんばれば、その時期ある程度子どもに我慢させるのも後々のためにはいいのではないかと思います。

さて、もう少しすると冬休みに入り、子どもたちはしばらく学校から離れお家中心の生活になります。子育てのプライムタイムは長いようで短いものです。また、過ぎ去った時間は二度と帰ってきません。ですので、この年末年始お子さんと多くの時間を共有し、お家の方自身も喜びに満ちた時間、健康的な生活を過ごされるよう願っています。長かった2学期の間、学校に大きなご支援をいただきありがとうございました。



学習発表会を終えて

小学部

11月18日（金）に、小学部学習発表会が行われました。それぞれの学年がその学年らしさを発揮して、学習の成果をしっかりと発表することができました。

1年生は「ぞうれっしゃがやってきた」をサーカス隊のパフォーマンスを交え、ひな壇に座っている時の演技やきれいな歌声を意識して精一杯演じました。2年生は継続して取り組んできた詩の暗唱を生かして、「北京浦島太郎伝説」を会場に響き渡るような声で元気いっぱい演じました。3年生はこれまで校外学習で学んだことを感謝の気持ちとともに、「モチっとエイサー『謝謝の舞』」で表現しました。4年生は、オリジナルのミュージカル「Power of Music」で、歌あり合奏あり劇ありの楽しくて素晴らしい演技を披露しました。5年生は、合奏「スターウォーズ」合唱「友がいるなら」の練習を積み重ね、美しいハーモニーを会場いっぱいに響かせました。6年生は「シンデレラ」の劇を、音楽スタッフ、舞台スタッフも含めみんなで作り上げ、会場を笑いの渦に巻き込みました。

会場準備や後片付け、直前の掃除なども、高学年の児童が進んで行ってくれ、発表以外の場での活躍もとても光った学習発表会でした。

子どもたちはこの経験を通して、また一歩大きく成長することができたことと思います。



鑑賞教室を終えて

学習部

今年度の鑑賞教室はカンフーでした。息のそろう演技に加え、棒や剣などを使った技もあり、迫力満点でした。今回来てくださった劇団の中には、同じ年代の子どもたちもおり、見事な演技にとっても感動している様子でした。鑑賞のあとは、カンフー体験も行われました。カンフーの基本動作を教わり、体育館には力強い掛け声も響きわたりました。最初は難しそうにしていた子どもたちでしたが、最後まで真剣なまなざしで取り組む様子がとても印象的でした。児童生徒が一体となってカンフー体験ができたことは、子どもたちにとっても良い経験になったと思います。

これらの鑑賞を通じて、子どもたちは中国文化のよさや面白さを感じることができました。このような活動が、中国の文化や芸術に親しむきっかけになればと思います。



国際弁論大会を終えて

中学部

11月26日（土）、北京市月壇中学校において、月壇中学校と本校との交流弁論大会が開催されました。天泰ホテルで行われた弁論大会は、今年29回目を数え、6名の出場者は練習期間が一ヶ月の短期間とは思えない見事な弁論を披露しました。その後の班別交流では月壇中の教室でクイズやインタビューを交え、自国の文化や習慣を中国語で紹介し、それぞれ工夫を凝らしたプレゼンテーションを行いました。皆が国際親善大使となり、両国の生徒の感じ方の共通点や違いについて知る機会を得たことが、何よりの成果だと感じます。来年度は、本校開催となります。また、次なる立役者の出現が楽しみです。なお、本年度の出場者と題は次の通りです。

